

1 なぜお母さんか

大阪で小学校4年生の女の子が虐待により死亡し、死体遺棄で母親らが逮捕された事件がありました。悲しい出来事でした。女の子は虐待を繰り返す継父のそばで、黙認している母親を最後まで「お母さん」と呼んでいたことをニュースで知りました。子どもたちにとってお母さんは、一番大切な存在であるとともに、子どもたちはどんな時でも、必ずお母さんが守ってくれるものと信じていることをあらためて知る事件でもありました。

2009年2月、私はアメリカ合衆国のワシントンD. C. に住んでいるジュディ・ヒューマンさんを訪問しました。彼女は、教育省次官や世界銀行の顧問を務め、現在、ワシントンD. C. の障がい者支援局長として、障がいのある人やその家族を支援する仕事をしています。彼女が次のようなことを話していました。

「子どもたちにとってお母さんは絶対的な存在であり、また、子どもは、お母さんが無条件で守ってくれる存在であることを知っています。頼りなさそうなお母さんであっても、お母さんはお母さんです。子どもの信頼に応えるためには、お母さん自身が一步一步自分の力で前進しなければなりません。ここワシントンでも、そのことを大切にしてお母さんを支援しています。一生そばにいて、守ってくれるのはお母さんしかいないんですから」。

このように、お母さんは絶対的な存在であり、気になる子どもにとっても、そうでない子どもにとっても影響力は大きく、お母さんの態度一つで子どもは大きく変わると思います。子どものことを考える時は、お母さん抜きに話を進めることはできません。

2 お母さんが変わるということ

子どもはすぐには変わりませんが、お母さんは変われます。なぜなら、お母さんは子どもより世の中を知っていて、いろいろな人の生き方を見ているため、どのように変わればよいのかイメージできるからです。といっても、そう簡単に変わるものではありません。

「変わる」という意味は、今、目の前にいる子どもの姿をありのままに見つめることです。過大評価することも、過小評価することもなく子どもを見ることを意味しています。ありのままの姿が見えるようになると、その子らしさがはっきりとわかるようになります。その結果、普通の子どもに近づけるために必死でがんばることもなくなり、また、きちんとしつけができないからと悩むこともなくなるでしょう。

その子らしく生きられるようにすればいいわけですから、子育ては楽になると思います。

お母さんが変われば、子どもは必ずその変化に気づきます。これまでとは違う視線を感じ、優しいお母さんを受け入れることができるようになるでしょう。そして、受け入れることは、



お母さんが「変わる」ということは、子どもを過大評価することも、過小評価することもなく、今、目の前にいる姿をありのままに見つめること

お母さんの気持ちに答えようとがんばることにつながると思います。これが、お母さんが変われば子どもが変わるということです。

お母さんが変わるためには、家族の中に支えてくれる人がいなければなりません。お父さんやおばあちゃん、おじいちゃんなどの協力が必要です。

お父さんは仕事が忙しく、疲れて帰ってくるので子育てに協力してほしいと言えないかもしれません。また、おばあちゃんには、おばあちゃんが産んだ子どもでもないし、かわいい孫でもあるので本当のことを言えずにいるかもしれません。しかし、勇気を出して、まず家族の中で理解と協力を求めましょう。

お母さんが変わるためには、お父さんの理解と協力は必要不可欠で、本当は『お父さんが変われば子どもが変わる』という本を出したいくらいです。



お母さんが変わるためには、家族のサポートは不可欠。まず家族の中で理解と協力を求めることが大事